

土木学会四国支部「土木紀行」No.75

阿南市椿泊の町並み

徳島県阿南市の南に、深く切り込んだ入り江がある。入り江をつくる南側の岬は蒲生田岬。もう一つの岬の名前は不明だが、その入り江側に細長い漁村がある。椿泊（つばきどまり）である。ここは、車一台がぎりぎり通れるくらいの幅の道沿いに、1.2kmほど、細長くのびた町である。（写真1、2）

戦国期には阿波水軍の統帥・森家の拠点として栄えたそうだ。江戸期には、蜂須賀家のもと森甚五兵衛が水軍の拠点を置き、紀伊水道をおさえていたため、参勤交代などでも重要な役割を担っていたようだ。また県南の漁業権も与えられ、港町や漁村として栄えたそうである。

細い道に面して軒を連ねる家々をよく見ると、1階や2階の窓の欄干が凝った彫り飾りが施されていることに気づく。こうしたところで豊かさを競い、それが富の蓄積になっていったようだ。（写真3）

この豊かさは、過去のものというわけではなく、椿泊漁協は延縄、底引き、建網、定置網、海士、一本釣りなど漁の種類が多く、漁船による水揚げ高も県内一を誇っている¹。実際、町を歩いてみると、確かに空き家も多くなっているものの、軒先に干物がつるしてあったり、生き生きとした町であることが伝わってくる。また、玄関前に三輪車があったりと、若い家族も多いことも分かる。

道が細いため、散策するには、漁港周辺に車を置いて徒歩で行くのがおすすめである。町の中心



写真1 椿泊の細い道（1）



写真2 椿泊の細い道（2）



写真3 欄干の飾り彫り

を貫く道だけでなく、海側や山側にもぜひ寄り道していただきたい。

現在、椿泊では新しい岸壁と堤防を施工中であるが、その手前には、作られたコンクリートの堤防もある。それをよく見ると下段にはかつての堤防だったと思われる石積みも見られる（写真4）。こうした発展の軌跡を探しながら町を散策するのも面白い。

また、山側には福蔵寺と佐田神社が並んでいる。どちらも階段を上っていく小高いところに位置しているため、そこからの眺めは最高である（写真5）。佐田神社では、毎年9月に豊漁を祈願する秋の例祭が開催され、山車の練や神輿の海渡御、船団の海上パレードなどがあるそうなので、それに合わせて行くのもおもしろそうだ。

岬の先端近くまで行ったら、ぜひ、岸壁の方に出ていただきたい。数多くの漁船が停泊していて椿泊の活気を感じられる他、そこから入り江の奥を見たときの山々の折り重なる様子が絶景である（写真6）。

集落がほぼ終わる頃、椿泊小学校が現れる。ここは森甚五兵衛が作った椿泊城跡だそうだ。海に面したところに教室が配置され、こんなところで授業が受けられる小学生をうらやましく思う。が、同時に、あまりの眺めの良さに授業に集中できなさそうだと少し心配にもなったりする。

通りすがりに声をかけてくれた住民のおばあさんによると、小学校を過ぎてさらに歩いた岬の先端がとても良いらしい。私は体力の都合でまだ行けていないが、椿泊散策の際には、ぜひ挑戦していただきたい。

【参考文献】

1 徳島県南みどころ情報誌 四国の右下右上がり、2011年12月号

【執筆】

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部
助教 真田純子

【リンク】

土木学会四国支部「土木紀行」
<http://doboku7.sakura.ne.jp/kikou/kikou.htm>

土木学会四国支部 <http://www.jsce7.jp/>



写真4 古い堤防（下段）



写真5 神社からの眺め



写真6 港から山側をみた眺め



写真7 椿泊小学校